

# 経済・金融 フラッシュ

## 鉱工業生産 08年7月 ～生産の調整ペースは引き続き緩やか

経済調査部門 主任研究員 齋藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

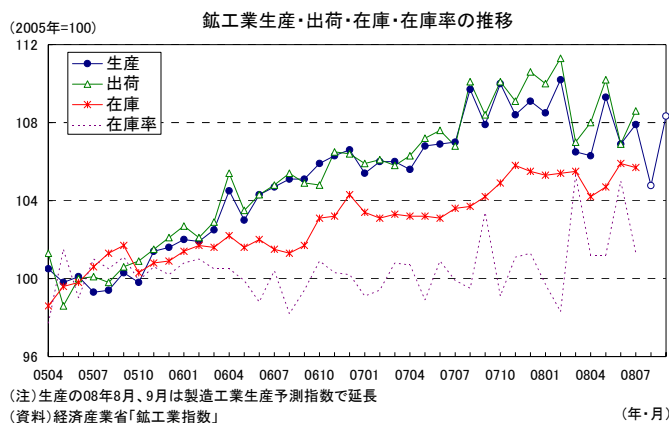
### 1. 生産指数は2ヵ月ぶりの上昇

経済産業省が8月29日に公表した鉱工業指数によると、7月の鉱工業生産指数は前月比0.9%と2ヵ月ぶりの上昇となり、市場予想を大きく上回った（ロイター集計：前月比▲0.5%、当社予想も同▲0.5%）。出荷指数は前月比1.6%と2ヵ月ぶりの上昇、在庫指数は前月比▲0.2%と3ヵ月ぶりの低下となった。

7月の生産を業種別に見ると、新興国向け輸出が好調な輸送機械が前月比4.0%の高い伸びとなったが、在庫積み上がりの動きが顕著となっている情報通信機械（前月比▲7.6%）、電子部品・デバイス（前月比▲5.2%）は大きく落ち込んだ。

速報段階で公表される16業種中、8業種が前月比で上昇（6業種が低下、2業種が横ばい）となった。

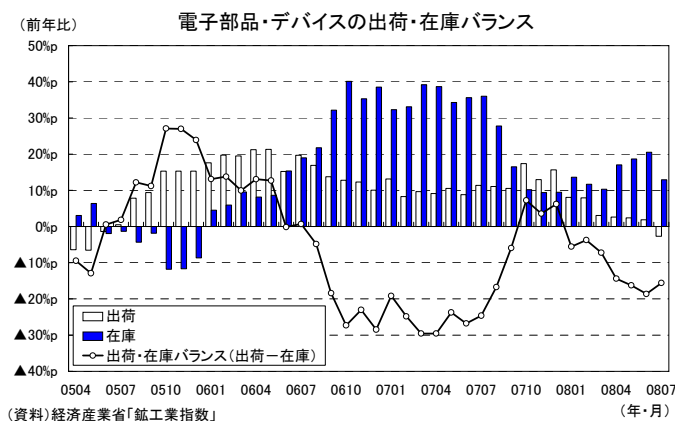
財別には、設備投資の一致指標である資本財出荷（除く輸送機械）が前月比▲3.0%、前年比▲11.4%と急速に落ち込んでいる点が目立つ。GDP1次速報では、4-6月期の設備投資は前期比▲0.2%と小幅な減少にとどまったが、7-9月期は落ち込み幅が拡大する可能性が高いだろう。



### 2. 7-9月期も減産ペースは緩やかにとどまる見込み

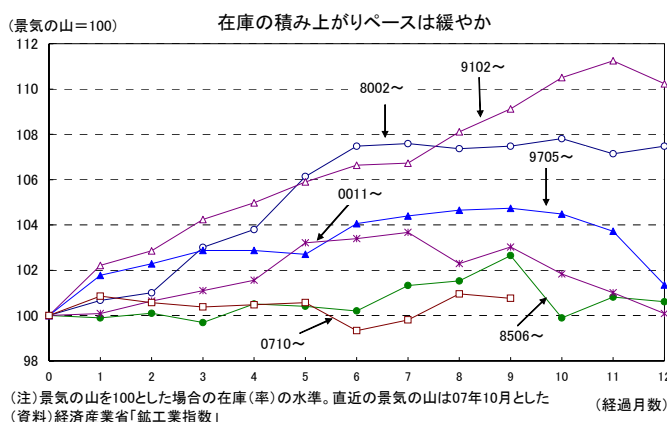
電子部品・デバイスの在庫指数は前月比▲3.0%と5ヵ月ぶりに低下し、前年比でも12.9%と積み上がり幅が縮小した（6月：同20.5%）。出荷指数は前月比▲3.1%と2ヵ月連続で低下し、前年比では▲2.7%（6月：同1.9%）と37ヵ月ぶりに減少に転じた。この結果、出荷・在庫バランスは▲15.6%ポイントとなり、6月の同▲18.6%ポイントからマイナス幅が縮小した。

出荷・在庫バランスは5ヵ月ぶりに改善した



が、出荷の落ち込みはむしろ大きくなっており、在庫調整が順調に進展しているとは言えない。携帯電話、液晶テレビ、デジタルカメラなど IT 関連の最終製品が多く含まれる情報通信機械は、出荷が大きく落ち込み、在庫が大幅に積み上がっている（7月：前年比 33.2%）ため、電子部品・デバイスの在庫調整にはある程度の時間を要するだろう。

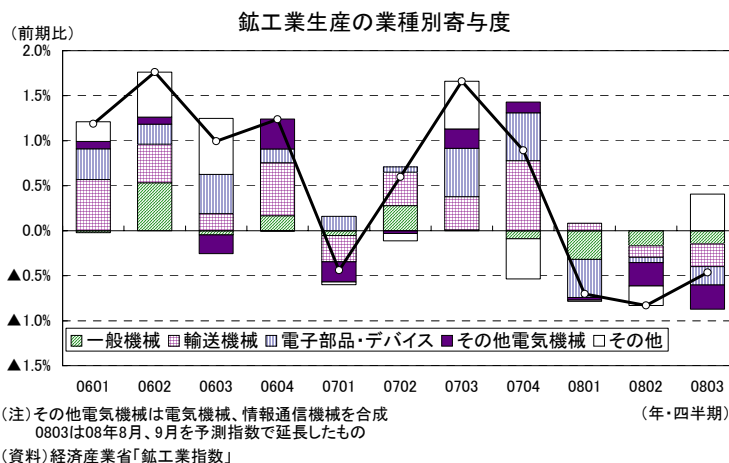
その一方で、鉱工業全体で見れば在庫の積み上がり幅は引き続き小さい。景気はすでに後退局面入りしていると見られるが、過去の後退局面と比較すると在庫の上昇ペースは緩やかであり、現時点では在庫調整圧力はそれほど高いものとはなっていない。



製造工業生産予測指数は、8月が前月比▲2.9%、9月が同3.4%となった。7月は前月比4.0%と比較的高めの伸びとなった輸送機械だが、8月は同▲10.1%と大幅減産が見込まれており（9月は同6.9%）、情報通信機械は7月の前月比▲7.6%に続き、8月、9月も減産計画となっている（8月：同▲1.0%、9月：同▲5.9%）。7-9月期全体では4-6月期に続き、一般機械、輸送機械、情報通信機械が生産の下押し要因となることが見込まれる。

7月の生産指数を8月、9月の予測指数で先延ばしすると、7-9月期の生産指数は前期比▲0.5%と3四半期連続の低下となる。鉱工業生産は1-3月期、4-6月期と2四半期連続で減産となったが、マイナス幅はそれぞれ前期比▲0.7%、▲0.8%と小幅であった。生産は7-9月期も減少する可能性が高いが、今のところ減少テンポが加速するような状況とはなっていない。

前回の景気後退局面（2001年のITバブル崩壊時）では、生産は前期比▲3~4%程度（四半期ベース）の急速な落ち込みが1年間続いた。足もとの生産の調整ペースは、景気後退局面としては緩やかなものにとどまっていると判断される。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。